

令和5年度

函館白百合学園高等学校

一般入学試験問題

国語

全コース共通

令和5年2月14日(火)実施

注意事項

1. 試験時間は50分です。
2. 問題は□から□まであり、13ページまであります。
3. 答えはすべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。

次の問いに答えなさい。

問一 次の——線のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① ナメらかな手触り。
- ② ダキヨウ案を考える。
- ③ 左右タイシヨウの配置。
- ④ カゲで悪口を言う。
- ⑤ 社会のフウチヨウ。
- ⑥ 寺のケイダイ。
- ⑦ 疲労がチクセキする。
- ⑧ 仕事にシシヨウをきたす。

問二 次の——線の漢字の読みをひらがなで答えなさい。

- ① 春の息吹を感じる。
- ② 顔の輪郭を描く。
- ③ 兄は辛抱強い。
- ④ 焦りのあまり額から汗が滴る。

問三 次の——線のうち、一つだけ品詞が異なるものがある。それはどれか、ア～エから選びなさい。

- ア 少しでも食べられない。
- イ どうかお幸せに。
- ウ まあおどろいたわ。
- エ きつと成功するだろう。

問四 次の漢字の中から、「そり」と「折れ」の両方の筆遣いを含むものを一つ選びなさい。

- ア 代                      イ 地                      ウ 海                      エ 成

問五 次の――線の言葉と似た意味の言葉を、ア～エからそれぞれ選びなさい。

① 地域医療の発展に寄与する。

ア 貢献                   イ 寄付                   ウ 賛成                   エ 参加

② 食べ物は潤沢に用意されている。

ア 適度                   イ 無駄                   ウ 質素                   エ 豊富

問六 次の意味に合う四字熟語を、ア～オからそれぞれ選びなさい。

① 物事の決断が遅いこと。

② 表現内容に含みのあるさま。

ア 日進月歩                   イ 意味深長                   ウ 危機一髪                   エ 单刀直入                   オ 優柔不断

問七 次の文は「息」を使った慣用句である。( )に入る適当な言葉を、ア～エからそれぞれ選びなさい。

① 弟が、息を( )て帰ってきた。

② 予選から息が( ) そうな試合が続いた。

ア 合い                   イ つまり                   ウ こらし                   エ はずませ

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

おもしろくないことだと

ひどく

素焼きの陶器の

伊予入道は、幼くより絵をよく書きはべりけり。**1**父うけぬことになむ思へりける。無下<sup>むげ</sup>に幼少の時、父の家の中門の廊の壁に、かはらけの

破片で 不動明王

客人で、誰とかいう確かに(名前を)聞いたのだが忘れてしまった(その客人が)、

われにて、不動の立ち給へるを書きたりけるを、客人、誰とかやたしかに聞きしを忘れにけり。「誰が書きてさぶらふにか」と、

主人が

本格的な書き手が書いたものではございません。

うちの幼い子どもが

**2**おどろきたる気色にて問ひければ、あるじ**3**うち笑ひて、「これはまことしきものの書きたるにはさぶらはず。**4**愚息の小童が書きてさぶらふ

ますます

本物の生まれつきの天才とは

このことをお止めになつてはいけません。

ふ」と言はれければ、いよいよ尋ねて、「しかるべき天骨とはこれを申しさぶらふぞ。このこと制し給ふ事あるまじくさぶらふ」となむ言ひける。

本当に

げにもよく絵見知りたる人なるべし。

『古今著聞集』

\*不動：不動明王。怒った顔つきで剣と縄のようなものを持ち、炎を背負っている姿で描かれる。

問一 —— 線1 「父うけぬことになむ思へりける」とあるが、何を「うけぬこと」と思っているのか。最も適当なものを、ア～エから選  
びなさい。

ア 息子の伊予入道が中門の廊下に落書きをしたこと。

イ 息子の伊予入道が不動明王を描いたこと。

ウ 息子の伊予入道が絵を描くこと。

エ 息子の伊予入道が子供っぽい絵を描くこと。

問二 —— 線2 「おどろきたる」とあるが、なぜ「客人」は驚いたのか。その理由として最も適当なものを、ア～エから選  
びなさい。

ア 不動明王が中門の廊下に描かれていたから。

イ 不動明王が見事に描かれていたから。

ウ 不動明王が素焼きの破片で描かれていたから。

エ 不動明王を描いたのが子どもだったから。

問三 —— 線3 「うち笑ひて」を、現代仮名遣いに改め、全て平仮名で書きなさい。

問四 —— 線4 「愚息の小童」とは誰のことか。本文中より抜き出しなさい。

問五 『古今著聞集』は鎌倉時代に成立した説話集だが、同じ鎌倉時代の作品を、ア～エから選  
びなさい。

ア 奥の細道

イ 竹取物語

ウ 源氏物語

エ 宇治拾遺物語

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

渡会美綾は大学の一年生で国語国文科に通っており、夏休みの間祖母の家に泊まりにきている。同じく祖母の家に泊まりにきていた従弟いとこの和志は大学

受験を控えており、祖母の計らいで苦手な国語を、近所に住んでいる某有名大学を卒業して今は家業の手伝いをしている「弓月」に家庭教師をしてもらっていた。

三時を見計らって書斎をノックすると、中の二人も承知していたようで、すぐに勉強を中断した。  
「すみません、お手間をかけて」

弓月がアルトの声で言ったが、和志は照れくさいのか押し黙って**1**いる。そのせいで、美綾が皿やカップを並べるあいだ、部屋の中はしんとしていた。少しは互いの会話も聞けるかと思つたのに、「**A**」思ひだった。

弓月はきつと、くだけた話で場を**a**和ませることなど考えもしないのだろう。それなら、部外者の美綾が**b**率先して話し出すのも「**B**」。あきらめて、盆を持って引き返そうとしたときだった。ふいに弓月が口を開いた。

「美綾さん、教育学部の国語国文なんですつてね」

びつくりして立ち止まった。

「そうですけど」

「よかつたら、いっしょに勉強しませんか」

「**C**」。思わず和志の顔を見やると、和志も**c**仰天していた。

「先生、どういうことですか」

「受験を経験したばかりの従姉いとこさんが来ていて、しかも国文だというのに、協力してもらわないでどうするの」

弓月はあくまで真剣だった。しかし、従姉に介入されて和志がうれいはずがないのだ。美綾も喜んでとは言えなかった。

「やりにくいでしょう、身内がいっしょにいては」

「あー、**1**おれもそう思います」

「それは違いますよ。身近な人だからこそ、よそでは黙っていることが言えるのよ」

細いメガネのフレーム越しに、和志の顔をのぞきこむようにして弓月は続けた。

「塾で教わる講義の対極が、そこにあるの。個人の体験や個人の感覚でものが言えること。従姉さんだって、そんな話をだれにでもは語らないでしょうし、あなたは、できないことを引け目に感じて見せたくないと思うようではだめ。少しも恥ではないのよ、たまたまコツがわかつて**①**いる人がそばに**②**いるなら、そのコツを拾って吸収すればいいの」

和志が考えこむと、弓月は次に美綾を見た。純粋な熱意だけを浮かべたまなざしで、美綾はひそかに驚いた。まっすぐに見つめる瞳の澄んだ色に、一瞬見とれていたのだ。よそではあまり見かけない清冽させいれつであり、そこに気づいてしまうと、取りすまして感じられた顔立ちまで、どこか美しく見えてくる。

すると、おかしなもので、端正すぎる弓月の口調もそっけなくは思えなくなった。「美綾さん、お茶をここでいっしょにいかがかしら。ちよっとした雑談でいいの、あなたが受験で感じたことを、ぜひ聞かせていただきたいのよ」

結局、弓月の言うとおりにしてしまった。自分のコーヒートとパルフェを持ってきて、テーブルにつく。弓月は愛想笑いをしないし、どんなときも口ぶりは平静で、何か盛り上げる話術を持っているわけではない。だが、人から話を引き出すのはかなり上手だった。

美綾は、受験に特化した問題の印象などを語って③いるうち、弓月の合あいの「2」に感心した。知識の引き出しが多く、おざなりなことは言わない人物だ。いつのまにか、休憩時間が終わってもつきあい続けてしまう。しばらくすると和志も腹をくくった様子で、**3 自分から美綾に質問するようになっていた。**

美綾があと数日いることを聞き知った弓月は、八月の日程をずらして、もう一日美綾を交えて勉強しようと言い出した。話はすぐに決まってしまったが、弓月を送り出した後で、念のため和志に聞いてみる。

「私はどうせ暇だから、ことわる理由もなかったけど、本当によかったの？ 私が参加しちやっても」  
意外に和志はいやな顔を見せなかった。

「最初は④いると思っただけど、先生の言うことが正しいよ。自分の苦手科目が得意な人の考え方は、この際、だれだろうと聞いておくべきなんだろうな」

(弓月先生に心酔して④いるなあ……)

少しはその気持ちもわかる気がした。弓月のどこがいいのかわからないとは、もう美綾にも言えないだろう。

「しっかり向き合って話すと、**5 印象が変わる人だね。**固くてなじめない感じがしたのに」

「おれも、若い女の先生につくと知ったときの期待は大きくはずれたよ。でも、取っつきが悪くても、弓月さんには弓月さんにしかないものがある」

(荻原 規子『エチュード春一番 第二曲 三日月のボレロ』)

※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問一 「A」～「C」に当てはまる言葉として最も適当なものを、ア～エからそれぞれ選びなさい。

- ア 気が引ける      イ 当てがはずれる      ウ 心が弾む      エ 耳を疑ってしまう

問二 **1**いると性質が異なるものを、……線①～④から一つ選びなさい。

問三 ——線1「おれもそう思います」とあるが、どう思っているか。三十五字程度で具体的に説明しなさい。

問四 「2」に当てはまる言葉として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 歯      イ 足      ウ 目      エ 手

問五 ——線3「自分から美綾に質問するようになっていた」とあるが、その理由として最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 話を盛り上げることが上手な弓月に乗せられて、休憩時間を超えても話をしたいという欲求に駆られたから。  
イ 美綾を交えて話することで、自分の苦手とする科目を得意とする人の考え方は誰であれ聞くべきだと悟ったから。  
ウ 身内である美綾に国語が苦手なことを知られるという恥ずかしさを、質問してごまかそうと思ったから。  
エ 弓月が美綾から引き出す受験の話が面白く、もっと雑談をしてほしいと思いい休憩時間を伸ばしたかったから。



問六

4

に当てはまるものとして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 思った通りだ
- イ かんべんしてくれ
- ウ なるほど名案だ
- エ つまらないな

問七

——線5「印象が変わる人だね」とあるが、美綾が弓月に抱く印象の変化について説明した次の文章の「ア」～「カ」に入る言葉を、本文中から書き抜きなさい。ただし、指定の字数で答えること。

最初は顔立ちも「ア 六字」いる印象で、端正すぎる口調は「イ 五字」で、「ウ 八字」感じだった。しかし、「エ 五字」を浮かべたまなざしでもって家庭教師を務めており、人から話を引き出すのはかなり上手なうえ、「オ 七字」も多く、おざなりなことは言わない弓月の人柄を知るうちに、彼女に「カ 三字」ている和志の気持ち理解できるほど弓月の良さがわかってきた。

問八

——線a～cの漢字の読みを書きなさい。

次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

ある日、タクシーに乗ると、表紙に「よい人材がない、とお困りの社長へ」と書かれた技術系の人材派遣会社のパンフレットがあり、何気なく手に取ってみて驚いた。正しい文言までは覚えていないのだが、そこにはこんなことばが並んでいたのだ。「弊社のシステムを使えば、素直で優秀な「**1** 二字」が見つかるまで、何度でも交換することができます」。家電や洋服でさえ一度、買えば交換はききません、と明記しているものが多いのに、「**1**」はいくらでも交換が可能なのだという。

後から少し調べてみた。この派遣会社は最近、**a** ギョウセキを伸ばしているところを見ると、**b** トウロクする人も多く、結果的に求めていた人材を得られたIT関連企業の経営者も満足しているのかもしれない。

とはいえ、もしこの会社のシステムが働きたい人にも雇いたい人にもメリットがあるものだったとしても、そもそも人間をこうして「モノ以下」のように扱い、堂々と「**2** 六字」可能などとうたうことがあってよいのだろうか。そこで、「はい、あなたは技術についてはまあまあですが、人間的にヒネくれているのでダメ」と簡単に交換されてしまう人たちは、いったいどういう気持ちになるのだろうか。しかし、それを考え想像してみることは、「効率や生産性がすべて」と考えるような経営者にとっては、「時間の無駄」でしかないのかもしれない。

そもそも無駄とはなんだろう。また、すべての無駄がそんなにいけないことなのだろうか。

たとえば、二〇〇六年、北海道夕張市の財政破綻が明らかとなり、財政再建団体に移行することになった。それを受けて同市の市立総合病院は、二〇〇七年四月以降の\*人工透析の中止を決定した。中止の発表の時点で人工透析を受けていた患者は三三人だった。この人たちは、これから他の市町村の病院へ週に何度も通わなければならないが、**c** ソウゲイや交通費の補助はない。病院が密集している都会とは違い、いちばん近い施設でも車で一時間近くかかる。雪が降る冬季は、しばしば道路が通行止めになることもあるという。透析治療の中止は、市立病院が公設民営になることに伴う合理化の一環なのだが、男性患者のひとりには説明会で**3** 「透析を受けなきゃ死ぬんだ。あんたたちは生きてるが、われわれは生かされてるんだ」と怒りをあらわにしていた。

もし、中止の理由を平易なことばで述べるとすれば、「三三人くらいの透析では、経費ばかりかさんで収益が上がらず無駄だから」ということになるだろう。しかし、ここでの「無駄」とは、「お金の無駄」という意味ではない。男性患者は「お金の無駄を省くことが、実はわれわれの命を無駄とすることに直結するんだ」と言おうとしているのだが、それが財政再建を担う人たちにはよく理解できていないようだ。

このように「時間の無駄」「お金の無駄」をなくすことが、人の気持ちを無駄にし、さらには命を無駄にすることへとつながることもあるのに、そちらへの配慮はほとんど行われない。というより、世の中でいちばん悪いのは時間やお金の無駄が起きて効率が下がったり収益が落ちたりすることであり、それを減らすためには個々人が犠牲になっても目をつぶるべき、という雰囲気さえある。しかし、こうした考え

のもとに、「無駄」として排除されるものには、心や人格、命といった人間の本质にかかわることが含まれていることを忘れてはならない。ところが、**4「時間やお金の無駄は悪」という価値観のもとに世の中のいろいろな事がらが進んでいるにもかかわらず、一方で雑誌には「スローライフのすすめ」「環境も生活も大切に作るロハスな生き方を」といったメッセージがあふれ、「自分の魂とゆっくり向かい合いましょう」と促す瞑想やヨガの教室が人気だ。効率主義に走るばかりでは**5何か大切なものを失うのではないか、という直感が、人々の中にはまだ残っているのだろう。とはいえ、「スローライフ」をテーマとする雑誌の編集者が教えてくれたのだが、今やヨガや自然食品のインストラクターでも浮世離れした人や隠遁生活を送るような人は不人気で、あくまで合理的でお金のこともしつかり語れるようなタイプが人気なのだという。**「読者の多くは、人間らしさを手放したくはないけれど、かといって無駄の多い生活を送って損をするのもイヤ、と思っているのではないのね」と、その編集者は言っていた。もしかすると、読者の中には「時間とお金の無駄を省いて得をしたい」という気持ちがむしろ強いのに、週に一度くらいヨガやアロマセラピーに触れることによって「私にも心の余裕があるのだ」と思い込もうとしている、という人も少なくないのかもしれない。**

しかし、「結果や効率だけを追い求めるのは……」という疑問が少しでもあるのなら、本当は自分だけが**6スローライフをかじって「私は大丈夫」と思うのではなくて、「無駄」とされて切り捨てられようとしている人たちに目を向けるべきなのではないだろうか。**

二〇〇六年四月に行われた診療報酬改定では、リハビリ医療が「原則として発症から最大一八〇日」に制限された。たとえ医学的に必要であっても、一八〇日をすぎれば保険診療がまったく受けられなくなったのだ。ただ、この措置に対しては誰もが「無駄なのだから仕方ない」と沈黙したわけではなく、わずか四〇日あまりの署名活動で集まった四万人以上の打ち切り撤廃の署名が二〇〇六年六月三〇日、厚生労働大臣にわたされた。しかし、厚生省の反応はまったくない。「もう決まってしまった制度なのだから「そもそもおかしい」と言われてもどうすることもできない」ということなのだろうか。四万人もの人たちの「無駄の合理化だけでは人間は救えない」という思いも、「結果や効率がすべて」と考える政府側にとっては「無駄」として排除されたことになる。

こうして見てきても明らかのように、「結果や効率」からみて「無駄」であっても人間が生きる上で必要なものは確実にあるのだ。そもそも、無駄かどうかを「結果や効率」だけで判断しているところに問題があるのだ。

しかも「すべての無駄をなくそう」という姿勢が、とんでもなく非人間的な選択や決定を招いてしまうことがある。そうなったら、いくら合理的で効率的な社会が形成されたとしても、心を病む人が増え、犯罪が多発し、決して人々が望んでいたような「無駄なき世界」にはならないはずだ。**7無駄を省こうとして結局は無駄があふれかえった、というおかしな事態にならないようにするためにも、多少の無駄と思えること、とくに自分以外の人間がかかわる場合は、もっと寛大な気持ちで受け止めておいたほうがよいのではないだろうか。**

(香山 リカ 『「悩み」の正体』)

\*人工透析：機械を通して血液を浄化する治療法。定期的に行う。

※設問の都合上、漢字などの表記を改めました。

問一 次の(1)・(2)の問いに答えなさい。

(1) 「**1**」の中に入る二字の言葉を本文中から書き抜きなさい。

(2) 「**2**」の中に入る六字の言葉を本文中から書き抜きなさい。

問二 ——線**3**とあるが、この発言をした男性患者が言おうとしていたことを四十字以内で説明しなさい。

問三 ——線**4** 『時間やお金の無駄は悪』という価値観』とあるが、なぜ世の中では「時間やお金の無駄は悪」と考えるのか。解答欄に合うように二十字以内で本文中から書き抜きなさい。

から。

問四 ——線**5**「何か大切なもの」として筆者が具体的に挙げていることを本文中から二十二字で抜き出し、その最初と最後の六字を書きなさい。(読点も一字と数えます。)

問五——線6「スローライフをかじって」について、生徒A～Dが話している。A～Dの発言のうち、本文の内容に合わないものを一つ選びなさい。

- A 「スローライフ」というのは、「スロー」が「ゆっくり」だから「ゆっくり生活する」という意味だよ。雑誌でも多く特集されているらしいよ。
- B 効率やスピードを重視している現代だからこそ、のんびり過ごすことに惹かれるんだね。人として本来の生き方を取り戻したいというわけだ。
- C 人としての本来の生き方に戻るために浮き世を離れたとか、隠遁生活を送りたいなどと思ってスローライフを実行するんだね。
- D いや、「かじる」は物事の一部分だけを知るという意味だから、完全にスローライフを実行しているわけではないね。ちょっと皮肉が入っているな。

問六——線7「無駄を省こうとして結局は無駄があふれかえった、というおかしな事態」とあるが、どういう点が「おかしな事態」かどうか。七十字以内で説明しなさい。

問七——線a～cのカタカナを漢字に直しなさい。

一般入試

令和五年度 函館白百合学園高等学校入学試験

国語

解答用紙

受験番号

氏名

得点

一 問一 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 問二 ① ② ③ ④ 問三 問四 問五 ① ② 問六 ① ② 問七 ① ②

二 問一 問二 問三 問四 問五

三 問一 A B C 問二

問三

問四 問五 問六

問七 ア イ ウ

エ オ カ

問八 a ませる b c

四 問一 (1) (2)

問二

問三 から。

問四 s

問五

問六

問七 a b c

小計

小計

小計

小計

一般入試

令和五年度 函館白百合学園高等学校入学試験

国語

解答用紙

受験番号

氏名

100  
得点

一 問一 ① 滑らか ② 妥協 ③ 対称 ④ 陰  
 ⑤ 風潮 ⑥ 境内 ⑦ 蓄積 ⑧ 支障  
 問二 ① いぶき ② りんかく ③ しんぼう  
 ④ したたかる 問三 ウ 問四 エ 問五 ① ア ② エ  
 問六 ① オ ② イ 問七 ① エ ② イ

各①点×20

二 問一 ウ ③ 問二 イ ③ 問三 うちわらいて ① 問四 伊予入道 ② 問五 エ ①

三 問一 A イ B ア C エ ②×3 問二 ② ②

問三 身内である従妹といつしよに受験勉強をするのはやりにくいと思っている。

問四 エ ② 問五 イ ③ 問六 イ ③

問七 ア 取りすまして イ そっけなく ウ 固くてなじめない  
 エ 純粋な熱意 オ 知識の引き出し カ 心酔し ②×6

問八 a なごませる b そっせん c ぎょうてん ①×3

四 問一 (1) 人材 (2) 何度でも交換 ③×2

問二 お金の無駄を省くことが、実は命を無駄とすることに直結しているということ。

問三 効率が下がったり収益が落ちたりするから。

問四 心や人格、命、かかわること

問五 C ③

問六 合理的で効率的な社会の形成を目指した結果、心を病む人が増え、犯罪が多発するという人々が決して望んではいない世界になってしまうという点。

問七 a 業績 b 登録 c 送迎 ①×3

小計 20

小計 10

小計 36

小計 34